

さて、今年の天候も大荒れか？

2023年は世界中で猛暑の夏を経験した。中国や米国の一部では50℃以上を記録し、日本でも北海道函館市で観測史上初めて猛暑日を記録した。国連のグテーレス事務総長は「地球温暖化の時代は終わって地球沸騰の時代となり、気候システムは崩壊し、人類は地獄の門を押し開けてしまった。」と述べて、強い危機感を表明。WMOは今年1月に前年1年間の世界の平均気温を発表したが、それによると工業化前（1850－1900年）の平均気温から1.45℃上昇で、国際社会が上昇リミットとして合意している1.5℃ストレスレの状況。昨年は人類史上でも特筆すべき年となった。

それでは今年の前半（1～5月）はどうであろうか。各紙の報道と日本の気象庁が発表している「世界の天候－主な異常気象・気象災害」レポートなどから、印象的な出来事をピックアップしてみた。

（1）1月に米国各地で冬の嵐が大暴れ

- ・8－10日に南部から東部にかけて竜巻、暴風雨、大雪などに見舞われ、停電、交通不通など、建物、人命、経済活動に大打撃。
- ・20日にかけてほぼ米国全土に北極圏から大寒波が来襲し、航空便の欠航、低体温症や道路の凍結などにより、少なくとも83人が死亡したり、極度の低温のためEVの充電設備が正常に機能せず、各地で立ち往生するEVが続出とのこと。
- ・この頃、イギリスやドイツでは記録的な高温。

（2）砂漠の国で大洪水

- ・4月、UAEのドバイやアブダビで記録的大雨。ドバイでは142mmの降雨。これは同地の約2年分の降水量に相当。アブダビでは109mmの降雨。これは平年の22倍強。
- ・パキスタン、アフガニスタンで大雨・洪水により死者多数。
- ・ケニア～ルワンダで3月から記録的降水により各地で洪水、多数の死者。

（3）ブラジルでの異常気象

- ・アマゾン川流域では、2023年6月から前例のない大干ばつ。農作物や川の水温上昇でカワイルカなど甚大な被害。
- ・4～5月、南部の各地で大雨・洪水。湖からの大規模な氾濫などで死者多数。

（4）メキシコで“猿も木から落ちる”ほどの記録的熱波

- ・5月23日付毎日新聞によると、メキシコ湾岸沿いのタバスコ州で、5月16日以降で138匹のホエザルが死亡。メキシコでは3月半ばから厳しい熱波に見舞われており、高温や干ばつ、森林火災による水や食料の不足などの要因で死んだサルは「重度の脱水症状で、リンゴのように木から落ちた」と地元の生物学者が語っている由。

（事務局）